

学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 令和5年度 海津特別支援学校運営協議会（第3回）
- 2 開催日時 令和6年 2月1日（木） 13:00～15:00
- 3 開催場所 海津特別支援学校 会議室
- 4 参加者

会長	児玉 泉	民生委員（主任児童委員）
副会長	大橋 恵美子	共同生活援助 れんげの家 所長
委員	水谷 芳郎	有限会社吉野屋 代表取締役（欠席）
	白旗 徹	障がい者センター あいさんハウスぎふ施設長
	細井 豊年	海津市平田町今尾地区 前区長
	飯田 かゆ美	海津市更生保護女性会 会長
	田内 和子	輪之内町発達支援教室そら 管理者
	鈴木 智世	海津特別支援学校 PTA会長
学校側	高橋 圭子	校長
	平松 均	教頭
	岩田 成生	事務長
	渡邊 智美	小学部主事
	岡田 里香	中学部主事
	馬淵 陽子	高等部主事

5 会議の概要（協議事項）

（1）今年度の学校運営報告（校長）

（2）今年度の各学部の取組及び成果の発表

今年度の取組と成果についての報告（小学部主事 中学部主事 高等部主事）

小学部：音楽発表 中学部：プレゼン体験発表 高等部：ダンス発表

高等部作業コースの新製品価格設定について

（3）委員からの意見・学校への提言等について

意見1： 各部の成果発表を見ることができた。児童生徒が目的をもって挑戦する姿を感じた。自分のテーマを設定し、達成感を積み重ねていく姿も見られた。楽しみながら学んでいる様子も印象的であった。特に体育館での高等部の発表に感動した。音楽とダンスを通じて友人との触れ合いによる成長を見ることもできた。生徒にありがとうと伝えていただきたい。

意見2： 大きな成長を感じる一年間であった。多くの授業において先生方の準備の苦労もあったと感じる。私は放課後デイサービスを運営しているが、特別支援学校卒業後、就労してから、特に成人後の成長が、多く見られないという指摘を受けることがある。施設内の仕事には積極的に取り組めるが、施設外での仕事を苦手とする利用者も多い。支援学校での学ぶ姿勢を継続できるように工夫し、卒業後してからデイサービスで暮らす10年、20年間ににおいても成長を感じることができるよう努力したい。

- 意見3： 学生時代のゼロからのスタートであれば、短期間での成長を見込むことができるが、成人後の成長を感じるのは、誰しも難しいものである。年齢や状況に応じた成長を期待すればよいのではないか。能登半島で大きな地震があったが、障がいを持つ児童生徒の保護者が、避難所に迷惑をかけたくないと考え、避難所の利用を避けているとも聞く。災害時の地域の支え合いの精神が試されるのかもしれない。
- 校長： 災害時には想定外の事態が生じるものである。本校も体育館を福祉避難所として海津市と協定の締結を行っている。市町村と連携することで避難場所を確保することは重要であるが、大きな災害時には市町の支援を受けるのにも限度がある。安心して避難できるシステム構築はもちろん必要だが、いざというときに地域の皆さんからの障がい者への理解と適切な対応がいただけるとありがたい。そのためにも学校運営協議委員の皆さんと力を合わせて、地域との連携を大切にしたい。
- 意見4： 児童生徒の皆さんが、よく努力している様子が感じられた。最近、学校周辺を19時頃に通るかかると職員室が消灯していることが多い。働き方改革の意識が浸透してきていると感じた。
- 意見5： 小学部の音楽発表では丁寧な指導が行われていることが分かった。中学部の修学旅行プレゼン発表では、楽しく修学旅行に参加し、一番思い出に残る体験をしたことが伝わって来た。高等部の発表では、迫力を感じた。体育館に併設して建てられた新しいトイレの出来栄も素晴らしい。児童生徒も喜ぶのではないか。阪神淡路の震災の際には、私も被災した親戚の家に駆け付けた。その際には、被災地でみなさん大変な状況にあるにもかかわらず、避難場所の方が親戚の居場所まで案内していただいた。また、避難場所の待合所では遠方から駆け付けたことを労おうとお茶まで出していただいた。システム作りだけでなく、人と人とのふれあいや思いやりが大切だと感じた。災害を身近に感じられる訓練の継続が望ましい。
- 意見6： かけがえのない命のつながりを重視した本校の教育方針は、年間を通じて一貫性があり、素晴らしい。高等部の素晴らしい発表を見ると小中学部の取組の様子が分かる。小学部から一人一人の成長につながる教育が継続して行われてきたことが理解できた。9歳の言葉の壁を乗り越え、伝え方を工夫していく様子も垣間見ることができた。また、中学部では自分の体の理解に努め、性に関する情報も発信していることが分かった。児童生徒も自信の状況に真剣に向き合っている様子が、本日の成果発表から感じることができた。掲示物のフェルメールの絵画模写や、書初めなども興味深い出来栄であった。
- 意見7： 災害時の対応については、常日頃心悩む課題である。中学部のプレゼン発表では、しっかり話せる生徒の様子に感心した。各学部とも大きな成長を感じた。児童生徒は、周囲の様子を見つつ動くことも多いと思うが、教育活動の中で様々な刺激を受けて成長変化する。今後の成長が楽しみである。

会議のまとめ

- ・第3回学校運営協議会では、令和5年度の学校運営についての説明と各学部の活動説明を行った。
- ・高等部作業製品（手芸班、陶芸班）における新製品の価格設定を審議し承認を得た。